

## 万葉線観光列車の提案 Proposal of Manyosen Tourist Tram

安齋孝宣<sup>1</sup>, 内山岳洋<sup>1</sup>, 高橋佑介<sup>1</sup>, 宮崎佑一<sup>1</sup>, 中山晴幸<sup>2</sup>  
Takanori Anzai<sup>1</sup>, Takehiro Uchiyama<sup>1</sup>,  
Yusuke Takahashi<sup>1</sup>, Yuichi Miyazaki<sup>1</sup>, Haruyuki Nakayama<sup>2</sup>

Abstract : In this study, tourism activation along Manyosen, the tram line from Takaoka Station to Koshinokata in Toyama Prefecture, has been discussed. Among them, it is proposed for such tours involved in it and the tourist train in particular.

### 1. はじめに

万葉線は、富山県高岡市高岡駅から射水市の越ノ潟駅までを結ぶ路線である。万葉線沿線は高岡市の「高岡エリア」と射水市の「新湊エリア」の2つのエリアに大別することができる。高岡エリアは、高岡城の城下町として栄え、今でも高岡大仏や金屋町の街並み、瑞龍寺など歴史的な遺産が多く残り、小京都や小江戸のような観光資源が多い。さらに、このような、観光資源は若者よりはお年寄りに人気があり、鋳物なども、旅行のお土産としての需要は高いものとも考えられる。また、高岡を伝統工芸や職人の町としてのPRもできる。新湊エリアは、海辺の町の要素をアピールする。新湊は、海王丸パークなど、代表的な観光地を始め、遊覧船や内川緑地なども含めて、港町の風情がある。さらに、海の幸が豊富で寿司屋などが点在していることにも着目し、グルメの面においてもPRできる。

しかし、来たる2015年3月に開業を控える北陸新幹線によって今後起こるであろう北陸地方の観光需要増加、現状では観光においては高岡や万葉線の知名度が低く、北陸観光においては黒部ダムや兼六園などに押され、まったく意味のないものになってしまうかもしれない。そこで、万葉線を観光路線という資源として位置づけ、高岡と新湊の2つのエリア、さらにその中で点在している観光地を、万葉線を軸としてひとまとまりにする。観光地に行くには、万葉線を使えば行きやすいというイメージを作ると手

軽に行きやすく感じてもらいやすくなる。そして、そのための目玉として観光列車を走らせることを今回の目的に考えた。そしてその観光路線として観光ツアーを行い、調べる手間を省略し、手軽に来られるようにすることをもう1つの目的に考えた。

### 2. 観光列車によるツアールート案について

今回は北陸新幹線が開業した際、東京から新幹線で観光客が来る場合、7時頃に東京駅を発車する新幹線に乗ると、新高岡駅の到着は9時半頃。それから高岡駅まで移動する時間を考慮し、観光列車の高岡駅発車時刻を10:30と設定した。これは、既存の定期列車に先行させて運転するというダイヤである。東新湊駅に着くころには昼になるので、ここで昼食をとる。

きつときと市場では、料理が食べられるというだけでなく、買った魚をその場でさばいて食べられるというサービスや、海辺で獲れたての魚がそのまま売られているという文字通り漁師町の市場の雰囲気が味わえ、観光客に最適なお食事処である。また、お土産品なども充実している。海王丸パークへ行き、さらに海辺の景観や内川緑地などの名所を、アトラクション性のある遊覧船から1時間程度眺める。それからまた観光列車で高岡市に折り返し、高岡大仏や鋳物で有名な金屋町へと足を運ぶというのが1日のおおまかな日程である。これで再び高岡駅に戻ってくるのは17時前。それから東京に帰ったり、高岡

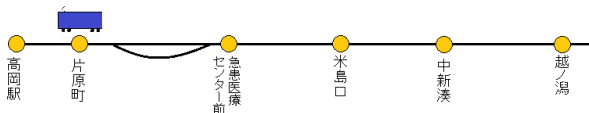
1 : 理工学部・学部・交通, 2 : 理工学部・教員・交通

のホテルに 1 泊して明日は別の観光地に行ったりするなど、様々な考え方で動くことができる。

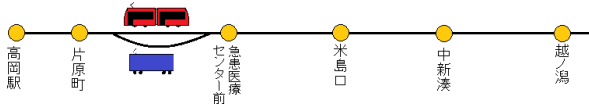


Figure 1 Course of one day sightseeing tour plan

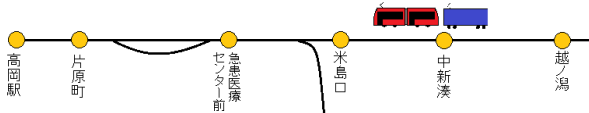
1) 高岡駅から片原町まで営業運転



2) 急患医療センター前の複線に回送して退避



3) 定期列車の前のを走って中新湊まで営業運転



4) 越ノ湯まで回送

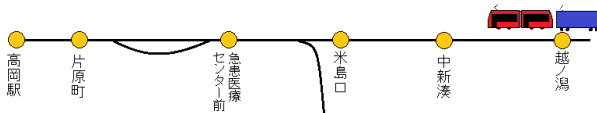


Figure 2 Operation examples of tourist and existing train

3. 観光列車の概要

さて、そのツアー案の軸となる観光列車についてであるが、近年各地で運行されている観光列車では、グルメが大きなテーマとなっているものもあり、食事やお酒を振る舞う列車も登場している。今回提案する観光列車では北陸地方の名産品である、バタバタ茶を振る舞う。食事についてはきっときと市場の

寿司があり、乗車時間も長くはないことから、お酒ではなくお茶を振る舞う。寿司を食べる前後に軽くお茶をたしなむという想定である。

今回観光用に改造することを想定したのは、万葉線の中でも古株の車両である 7070 型である。ツアーの定員は 20 人程度を想定し、4 人用のボックスシートを 5 つ配置する。ボックスシートの中央には、折り畳み式のテーブルを設ける。車両の幅が狭いため、通路を真ん中ではなく壁際にし、反対側の壁際にシートを設置する。さらに、お茶を振る舞うためのスペースを設ける。そのスペースにはお茶を淹れる人が 1 人立ち、お茶を淹れる湯呑には、高岡の銅器を用いる。また、観光列車は土日を中心とした運転とし、普段はお茶のスペースを閉鎖して、通常の定期列車での運用をして、地元の人にも利用してもらえるようにする。

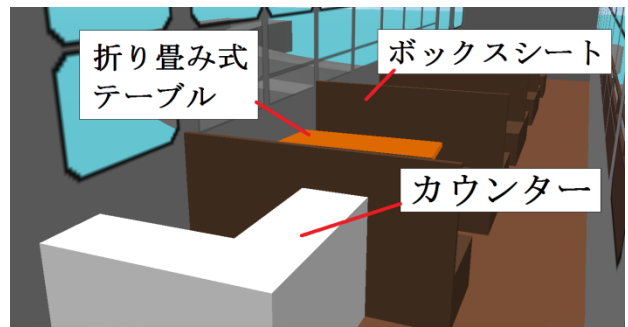


図. 3 観光列車の車内構想図

ツアーの価格は、車両の貸切り価格を現在運行を行っている貸切り列車を参考に、5 万円。それを 20 人で割って、一人当たり 4 千円。さらに、遊覧船 1500 円と食事代 1000 円程度とし、合計 6500 円と設定する。その中で、きっときと市場など各所でのツアー客専用割引券を作り、6500 円の中に入っていることをツアーの強みにすることも考えた。

4. 参考文献

- ・「まっふる 富山 立山・黒部 五箇山・白川郷 '15」 昭文社
- ・「射水市公式観光サイト」 <http://www.imizu-kanko.jp/www/index.jsp>